

# 中頭病院

## 公的医療機関等 2025 プラン

2017 年 11 月策定

2018/03/01 修正版 Ver1

2018/03/23 修正版 Ver2

2018/09/10 修正版 Ver3

【中頭病院の基本情報】

医療機関名：中頭病院

開設主体：社会医療法人 敬愛会

所在地：〒904-2195 沖縄県沖縄市字登川 610 番地

許可病床数：355 床（内：特例病床 10 床）

（病床の種別）：一般病床

（病床機能別）：高度急性期病床 51 床

急性期病床 304 床

※平成 29 年病床機能報告制度届出

稼働病床数：355 床

（病床の種別）：一般病床

（病床機能別）：高度急性期 51 床

急性期 304 床

診療科目：30 診療科

1.内科/2.循環器内科/3.消化器内科/4.呼吸器内科/5.感染症内科/6.血液腫瘍内科/7.内分泌・代謝内科（糖尿病）/8.腎臓内科（人工透析）/9.神経内科/10.外科/11.消化器外科/12.肛門外科/13.呼吸器外科/14.乳腺外科/15.心臓血管外科/16.血管外科/17.脳神経外科/18.整形外科/19.形成外科/20.産婦人科/21.小児科/22.小児外科/23.泌尿器科/24.眼科/25.耳鼻いんこう科・頭頸部外科/26.麻酔科/27.病理診断科/28.放射線科/29.救急科/30.リハビリテーション科

職員数：1221 名（2018 年 4 月 1 日時点）

職種	人数	職種	人数	職種	人数	職種	人数
医師	144	放射線技師	28	作業療法士	13	事務員	172
看護師	461	薬剤師	37	言語療法士	5	助手	22
保健師	34	臨床検査技師	34	歯科衛生士	2	保育士	25
助産師	34	臨床工学士	21	臨床心理士	2	営繕	8
准看護師	5	管理栄養士	8	介護福祉士	16	休職者	73
看護助手	47	理学療法士	23	社会福祉士	7		

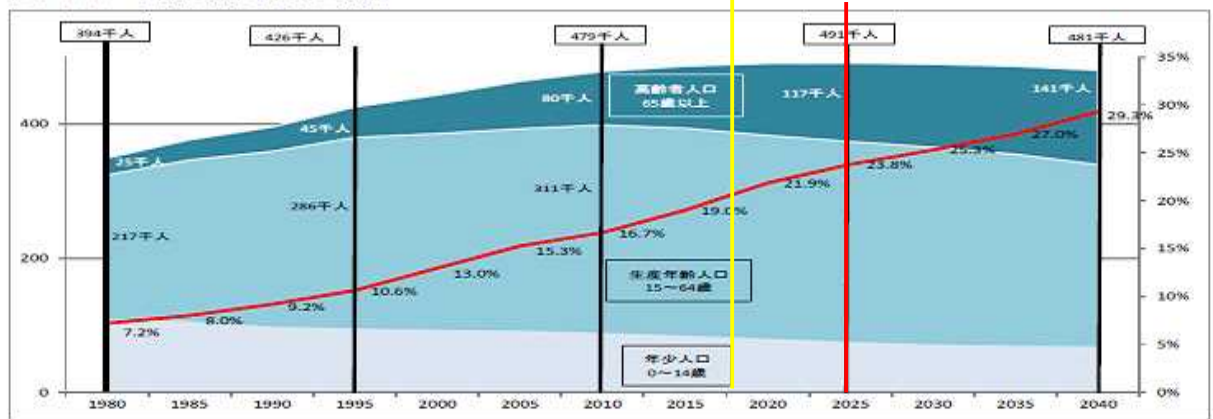
【1. 現状と課題】

①構想地区の現状（中部医療圏）

- 2035年まで人口が増加する見込み（約5,000人）※資料1
- 年齢構成が変化し、高齢化率が進む（高齢化率19%→24%）※資料1
- 総人口10万人対に占める一般病床数は少ない  
（中部医療圏579床・沖縄県748床・全国791床）※資料2
- 高齢者人口10万人対に占める療養病床は過剰  
（中部医療圏1533床・沖縄県1430床・全国998床）※資料3
- 一般病床・療養病床ともに病床利用率は高く・平均在院日数は短い ※資料4
- 救急搬送件数が年々増加傾向  
（2012年度と2017年度比較→3,450件増加）※資料5
- 他医療圏からの患者の流入・流出が15~16%程度存在する  
（北部・南部からの流入15.6% 北部・南部への流出16.4%）※資料6
- 中部医療圏におけるDPC疾患症例数構成の上位は、呼吸器・消化器・循環器となっている  
※資料7
- 2025年必要病床と病床機能報告に乖離がある ※資料8

資料1「中部医療圏の人口推計（沖縄県）」

図6-2-2 中部医療圏の人口推計



※2010年以前は国勢調査人口、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

表6-2-2 中部圏域の人口と高齢化率の推計

	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
65歳以上	25	30	36	45	58	71	80	93	107	117	124	131	141
15~64歳	217	242	263	286	294	302	311	311	305	300	295	287	273
14歳以下	107	105	97	94	92	91	87	83	79	74	70	68	67
高齢化率	7.2%	8.0%	9.2%	10.6%	13.0%	15.3%	16.7%	19.0%	21.9%	23.8%	25.3%	27.0%	29.3%

\*引用元：第7回沖縄県地域医療構想検討会議（平成28年12月22日）会議資料：資料1-3 沖縄県地域医療構想

資料2「全国・沖縄県（2次医療圏）における一般病床数」

表2-4 一般病床数（平成27年医療施設調査）

	（単位：床）			総人口 10万人対
	病院	診療所	一般病床	
全国	893,970	107,626	1,001,596	791.2
沖縄県	9,571	982	10,553	748.3
北部	1,060	48	1,108	1,107.3
中部	2,640	181	2,821	579.8
南部	5,022	616	5,638	784.5
宮古	487	105	592	1,145.9
八重山	362	32	394	739.7

※総人口は国立社会保障・人口問題研究所 2015年推計人口

\*引用元：第7回沖縄県地域医療構想検討会議（平成28年12月22日）会議資料：資料1-3 沖縄県地域医療構想

資料3「全国・沖縄県（2次医療圏）における療養病床数」

表2-5 療養病床数（平成27年医療施設調査）

	（単位：床）			高齢者人口 10万人対
	病院	診療所	療養病床	
全国	328,406	10,657	339,063	998.7
沖縄県	3,828	168	3,996	1,430.9
北部	496	0	496	2,077.5
中部	1,374	45	1,419	1,533.0
南部	1,654	113	1,767	1,266.0
宮古	216	10	226	1,760.3
八重山	88	0	88	845.7

※総人口は国立社会保障・人口問題研究所 2015年推計人口

\*引用元：第7回沖縄県地域医療構想検討会議（平成28年12月22日）会議資料：資料1-3 沖縄県地域医療構想

資料4「全国・沖縄県（2次医療圏）における病床利用率と平均在院日数（一般・療養）」

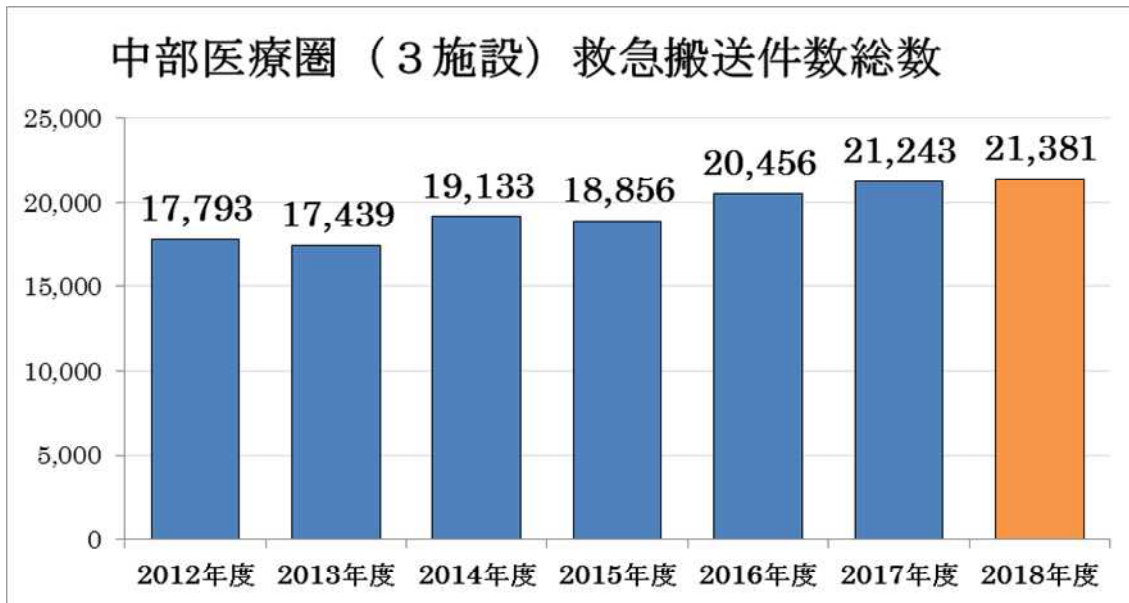
表2-6 病床利用率と平均在院日数

圏域	病床利用率(%)			平均在院日数(日)		
	全体	一般病床	療養病床	全体	一般病床	療養病床
全国	80.3	74.8	89.4	29.9	16.8	164.6
沖縄県	87.6	83.7	92.6	31.1	16.2	178.8
北部	75.6	64.7	92.2	43.8	23.2	168.7
中部	91.2	89.8	93.8	31.9	15.4	160.2
南部	89.3	86.6	91.7	29.7	15.7	202.5
宮古	79.0	73.9	90.1	32.3	20.2	391.5
八重山	68.2	67.1	98.5	20.0	14.6	77.8

出典：平成26年病院報告

\*引用元：第7回沖縄県地域医療構想検討会議（平成28年12月22日）会議資料：資料1-3 沖縄県地域医療構想

資料5 「中部医療圏 3 医療施設における救急搬送件数」



\*3 医療施設（県立中部病院・中部徳洲会病院・中頭病院） \*2018 年度は予測値

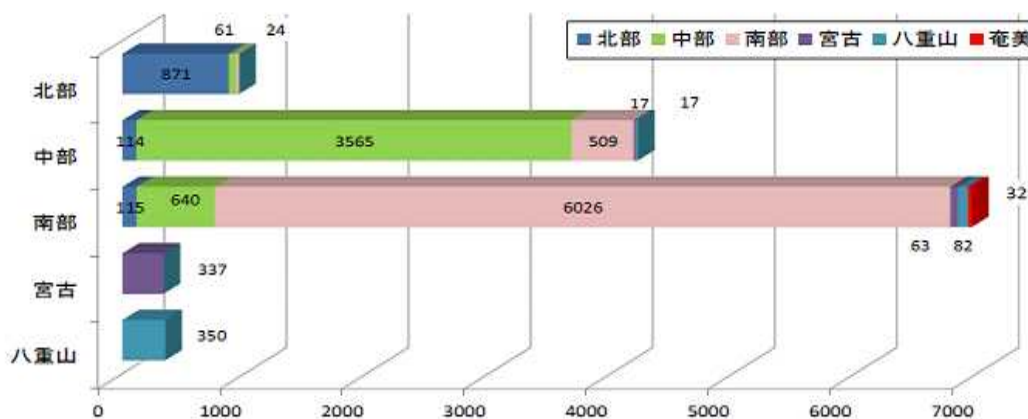
資料6 「沖縄県・中部医療圏 2025 年の医療機能ごとの医療需要と患者流入・流出推計」

表6-2-15 2025年の医療機能ごとの医療需要(1日当たりの入院患者数)の推計

単位：人/日

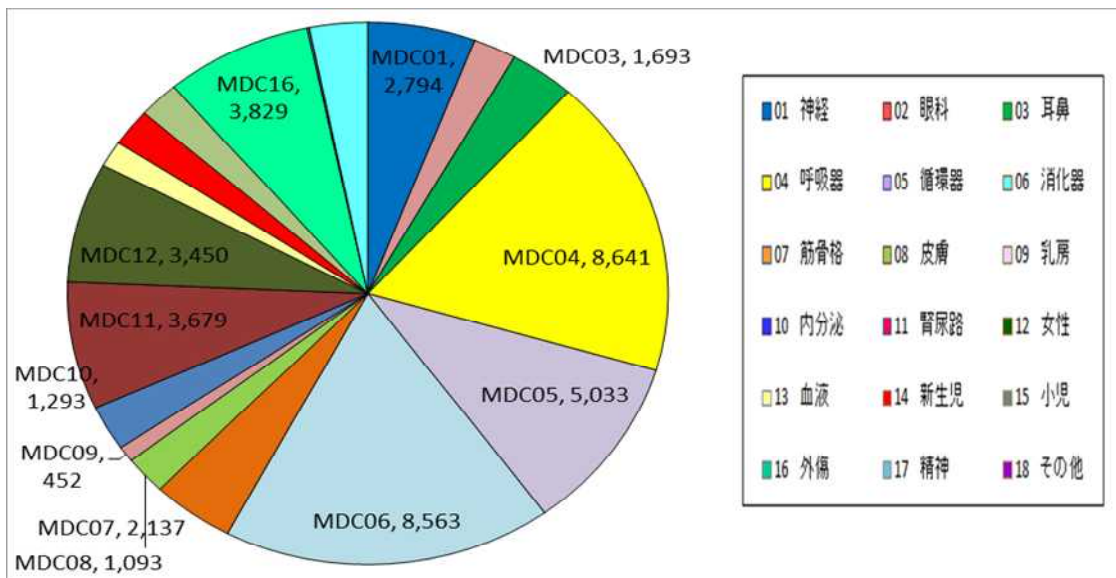
		総数				
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
沖縄県	医療機関所在地 (A)	12,894	1,374	4,233	4,207	3,080
	患者住所地 (B)	12,883	1,369	4,225	4,200	3,089
	流出入の状況 (A-B)	11	5	8	7	-9
中部	医療機関所在地	4,234	421	1,278	1,522	1,013
	患者住所地	4,292	457	1,324	1,485	1,026
	流出入の状況 (A-B)	-58	-36	-46	37	-13

図6-2-3 2025年の医療圏ごとの医療需要（1日当たりの入院患者数）の推計

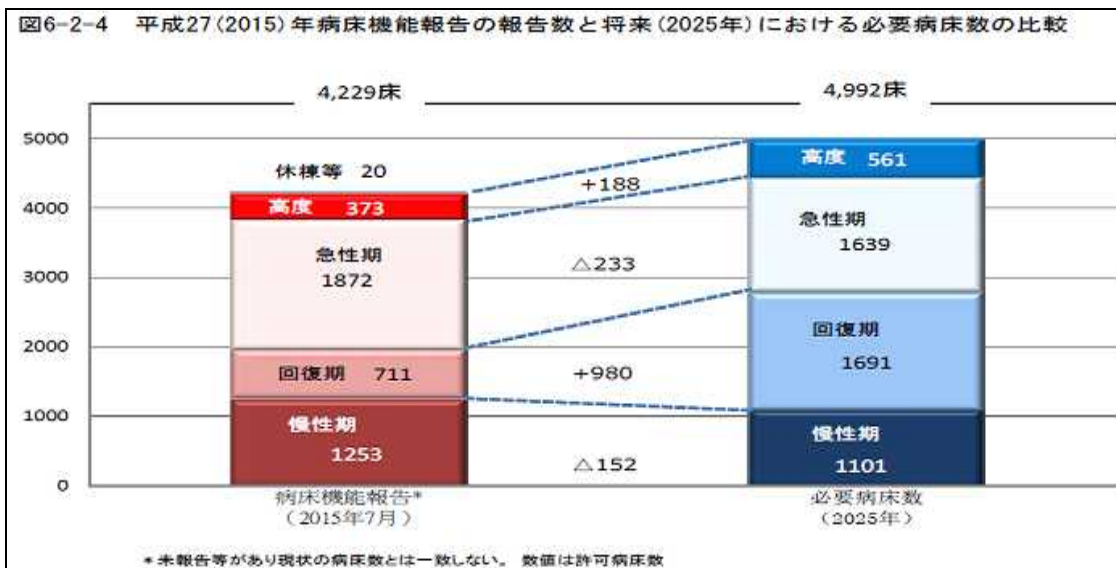


\*引用元：第7回沖縄県地域医療構想検討会議（平成28年12月22日）会議資料：資料1-3 沖縄県地域医療構想

資料7 「中部医療圏における DPC 疾患症例構成」



資料8 「中部医療圏病床機能報告と将来必要病床比較」



\*引用元：第7回沖縄県地域医療構想検討会議（平成28年12月22日）会議資料：資料1-3 沖縄県地域医療構想

②構想地区の課題（中部医療圏）

- 中部医療圏の人口は増加し、高齢者の割合も増加
- 高い病床利用率
- 人口対10万人に対する一般病床数が少ない
- 救急搬送件数が年々増加
- 急性期医療を受けた後の受け皿となる、地域包括ケア病床・回復期病床等が不足
- 病床機能報告と将来必要病床の乖離

### ③自施設の現状

#### ○敬愛会 理念

【良質な医療を地域に提供】 【ホスピタリティ精神に徹する】

【経営基盤の安定化】 【職場は学びと創造の場】

#### ○中頭病院 基本方針

1. 私たちは、信頼される医療を提供します
2. 私たちは、断らない救急につとめます
3. 私たちは、気配りのある対応につとめます
4. 私たちは、安全で質の高い医療を提供します
5. 私たちは、患者さまを含むすべての出会いに感謝します

#### ○中頭病院 診療実績

届出入院基本料：一般病床（327床）/7対1 一般病棟入院基本料

ICU（12床）/特定集中治療室管理料 2

HCU（16床）/ハイケアユニット入院管理料 1

治療室：手術室（11室）・日帰り手術センター（12床）・人工透析室（29床）

化学療法室（17床）・内視鏡センター（9室）・放射線治療室（リニアック）

平均在院日数：10.7日（2017年度）・10.4日（2016年度）・10.7日（2015年度）

※資料 9

病床利用率：101.0%（2017年度）・103.5%（2016年度）・103.8%（2015年度）

※資料 9

救急搬送件数：7,114件（2017年度）・6,707件（2016年度）・6,171件（2015年度）

※資料 10

年間手術件数：7,424件（2017年度）・7,374件（2016年度）・7,037件（2015年度）

※資料 11

紹介率：75.5%（2017年度）・83%（2016年度）・94%（2015年度） ※資料 12

逆紹介率：75.7%（2017年度）・68%（2016年度）・69%（2015年度） ※資料 12

パス適応率：50%（2017年度）・50%（2016年度）・54%（2015年度） ※資料 13

癌登録件数：1,019件（2014年症例：院内がん登録報告書） ※資料 14

放射線治療実績：5,913件（2017年度） ※資料 15

化学療法件数：5,073件（2017年度） ※資料 16

癌治療件数：1202件（2015年症例） ※資料 17

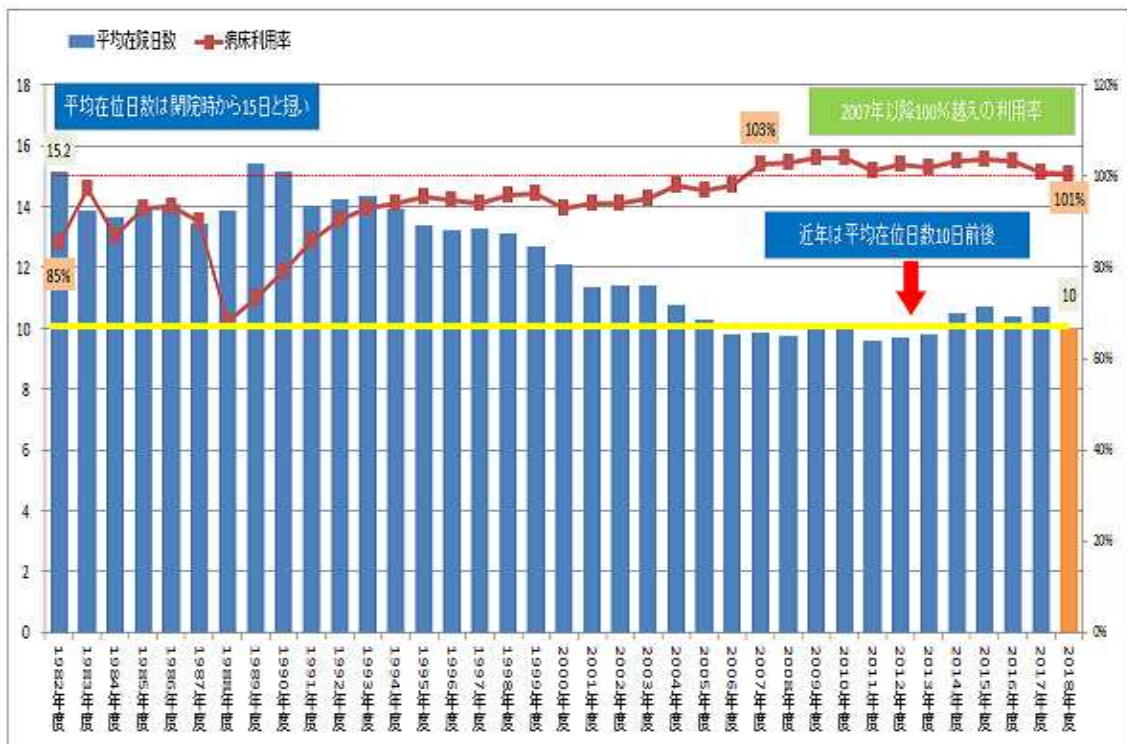
DPC 医療機関群：Ⅲ群病院（DPC 標準病院群）

取得基準（抜粋）：地域医療支援病院 救急告示病院 臨床研修指定病院 地域災害拠点病院

#### ○中頭病院 3つのコンセプト（新病院計画時）

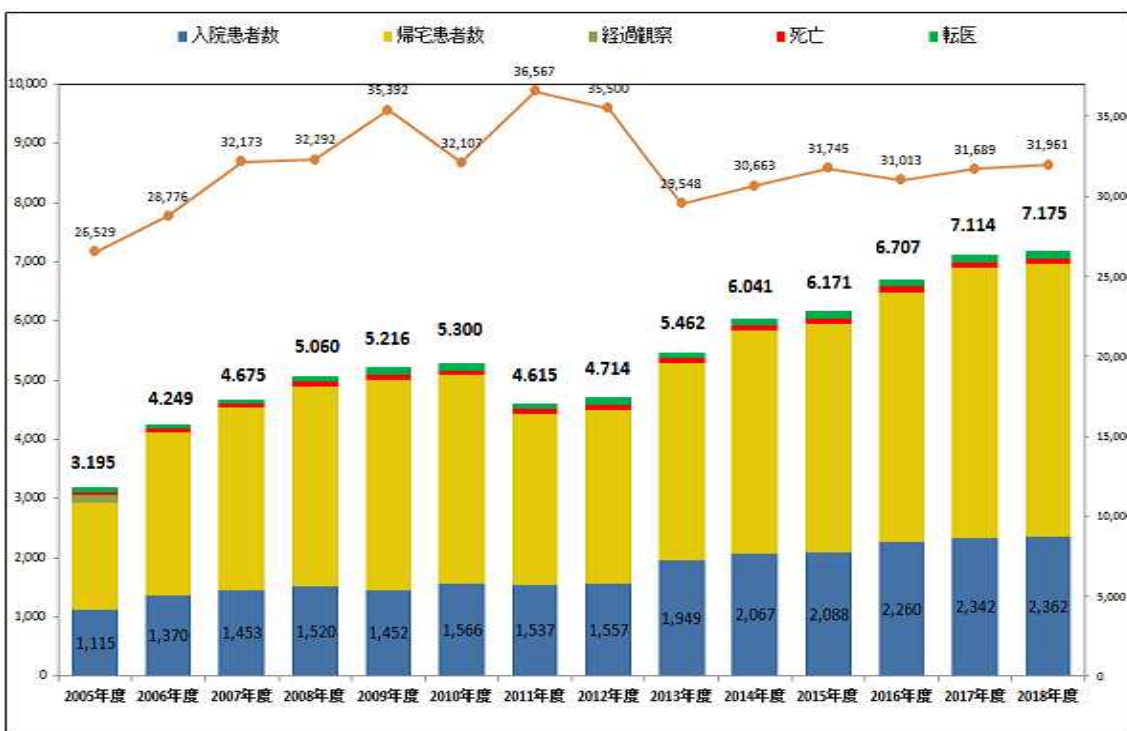
- ・高度急性期医療の提供
- ・集学的癌治療の構築
- ・救急医療の充実

資料 9 「中頭病位 平均在院日数・病床利用率推移」



\* 2018 年度は予測値

資料 10 「中頭病院 救急搬送件数推移」



\* 2018 年度は予測値

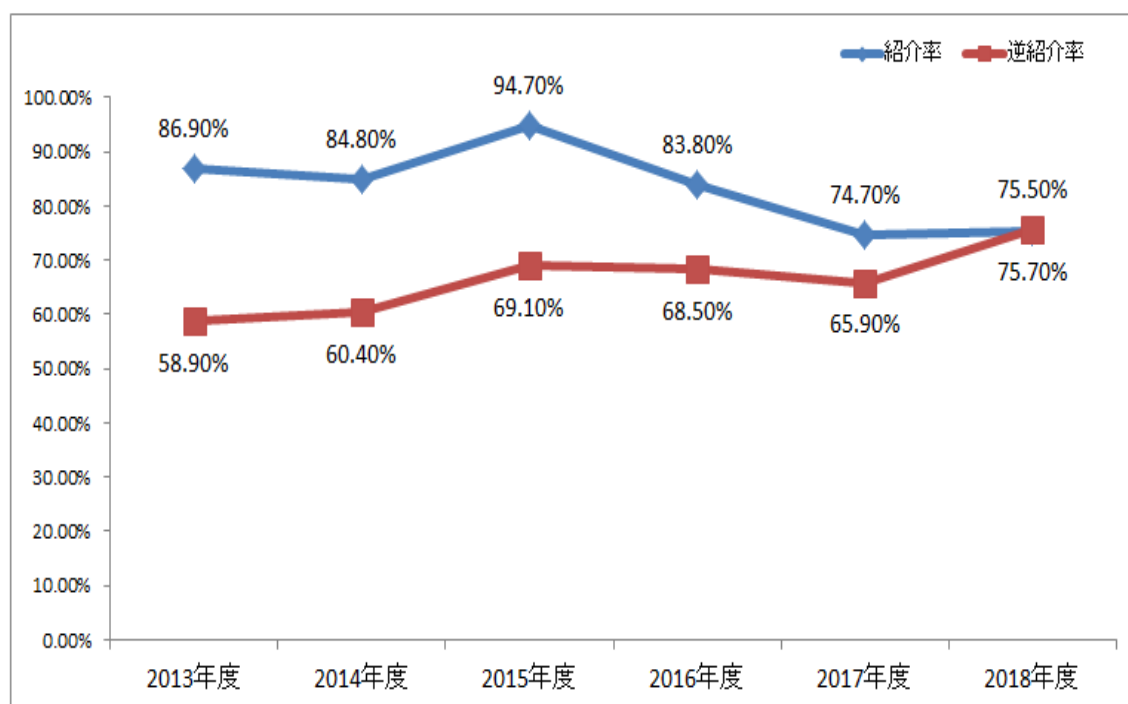


資料 11 「中頭病院 手術件数推移」



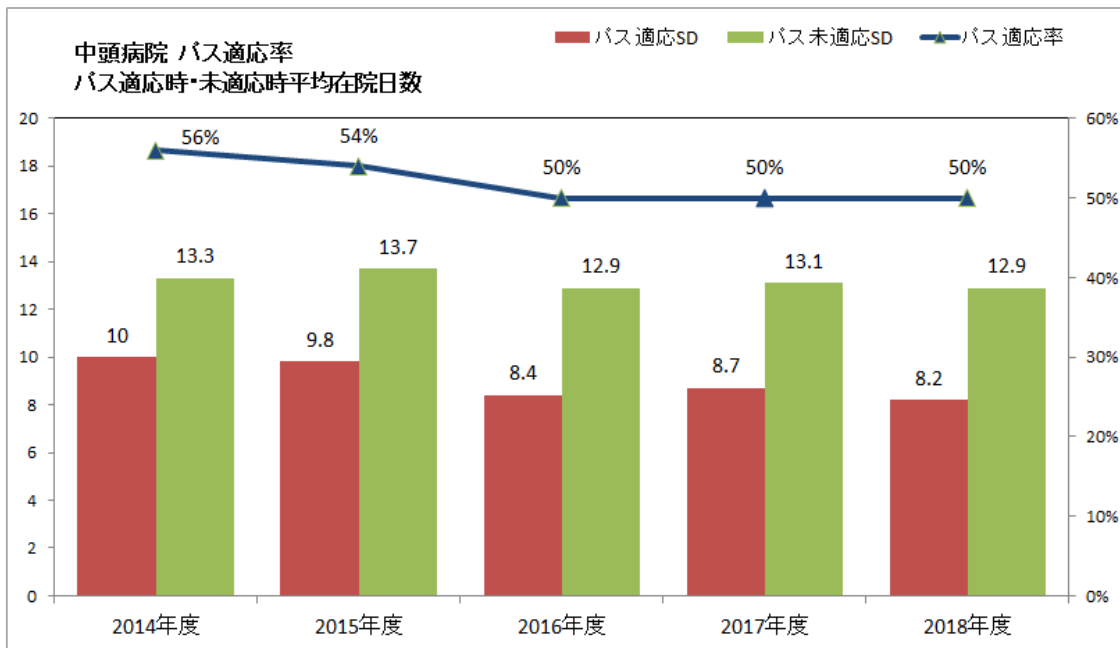
\* 2018 年度は予測値

資料 12 「中頭病院 紹介率・逆紹介率推移」



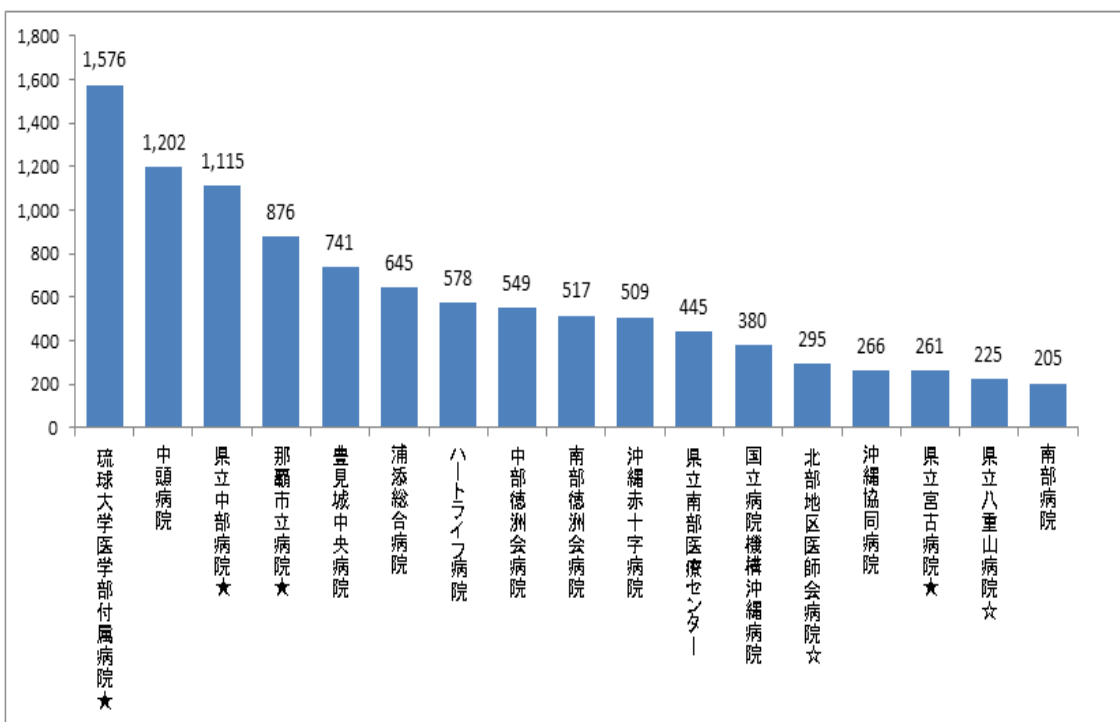
\* 2018 年度は予測値

資料 13 「中頭病院 パス適応率推移」



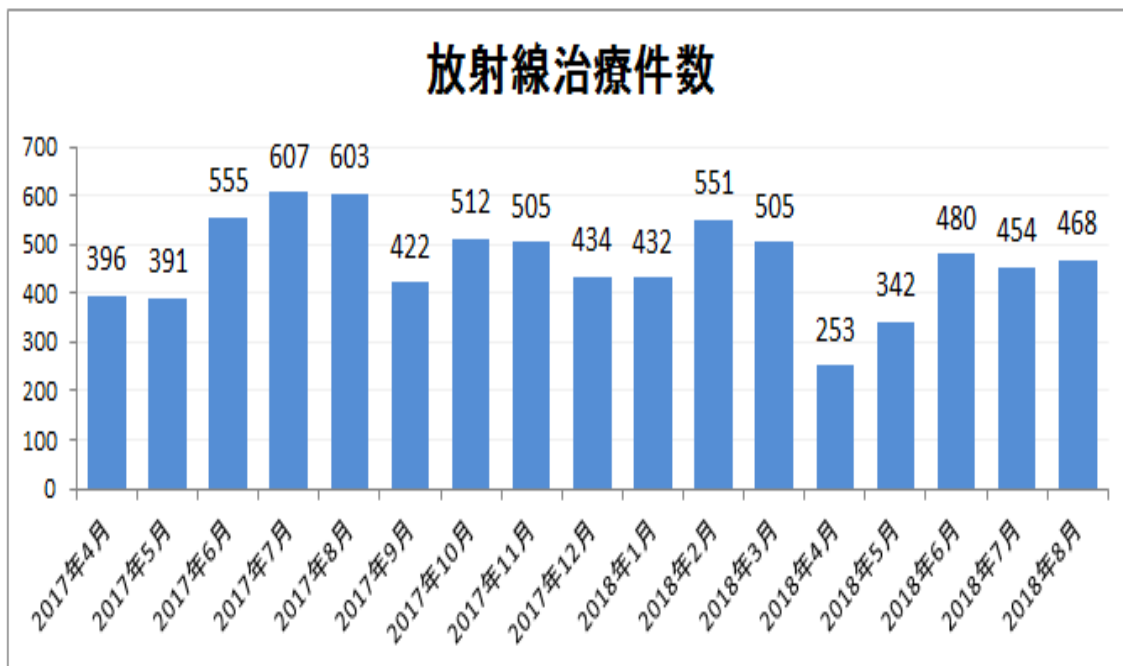
※SD=平均在院日数 ※2018年度は予測値

資料 14 「沖縄県 癌登録件数」

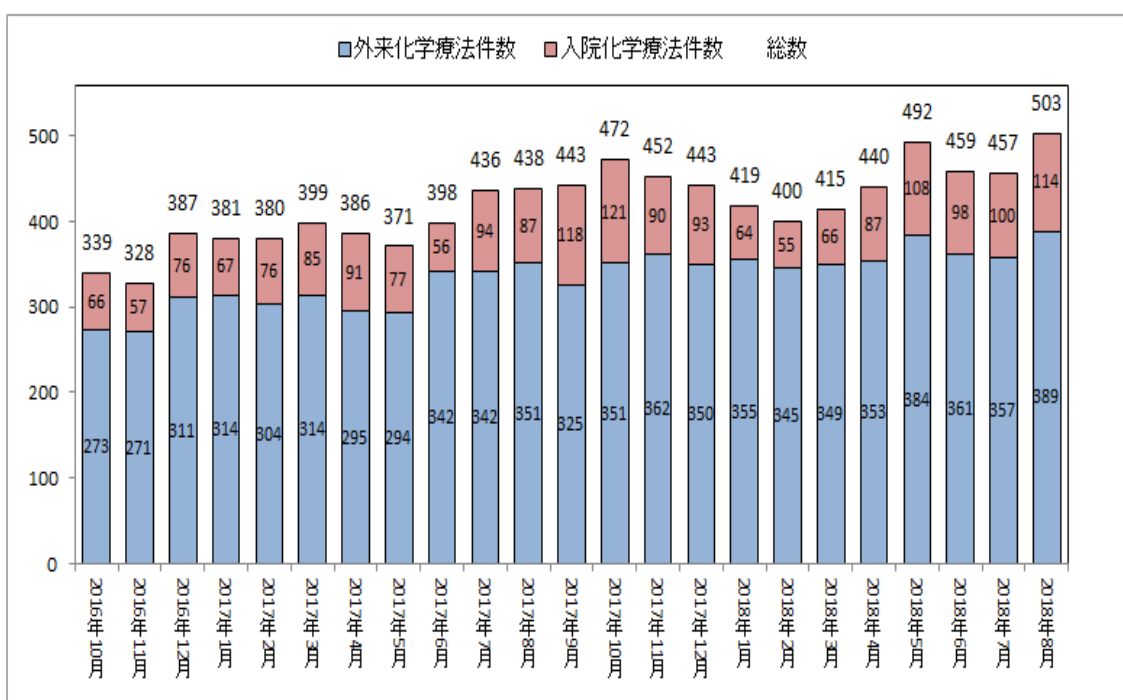


\*引用：2015年症例 院内がん登録集計報告書

資料 15 「中頭病院 放射線治療件数」



資料 16 「中頭病院 化学療法件数」



資料 17 「中頭病院 癌治療件数」

治療別(治療年毎)								
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	計
外科的治療	302	307	273	306	375	400	320	2283
鏡視下の治療	156	166	179	131	162	130	148	924
内視鏡的治療	192	132	113	133	140	107	107	817
<b>総数</b>	<b>650</b>	<b>605</b>	<b>565</b>	<b>570</b>	<b>677</b>	<b>637</b>	<b>575</b>	<b>4,024</b>

※ 治療年で集計。  
 ※ 2016年は病院移転のため件数若干低め。  
 ※ 内視鏡的治療後、外科的治療を実施した際、それぞれ件数に含む。  
 ※ 2015年まで「姑息的」も含むが、システムのな変更から2016年より含まない。

当院癌登録職員数：4人（平成30年度8月時点）

引用：2015年症例 院内がん登録集計報告書

④自施設の課題

○高い病床利用率

→パスの活用、日帰り手術の強化、入退院支援に向けた取り組みを行っているが、救急搬送件数の増加、入院患者の高齢化により入院日数の長期化が進む傾向である。

○回復期等の後方病床不足

→沖縄県の推計通り、中部医療圏は急性期治療後の受け皿となる回復期病床数が少なく、病床利用率が高いため転院調整等に難渋している。

## 【2.今後の方針】

### ①地域において今後担うべき役割

#### 〈5 疾病 5 事業への取り組み〉

- ・がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、へき地医療について、地域の中核病院としての使命を担う。

#### 〈高度急性期医療の充実〉

- ・特定集中治療管理料 2 の取得（専門医・認定看護師による集中治療の充実）
- ・最先端医療技術の導入（ダ・ヴィンチの導入 各種専門医による高度医療の提供）

#### 〈集学的癌治療〉

- ・放射線治療、化学療法、手術療法の充実
- ・緩和医療への取り組み強化
- ・がん拠点病院取得に向けた取り組み

#### 〈救急医療の充実〉

- ・新型救命救急センターの設置に向けた取り組み

#### 〈初期臨床研修・専門研修施設としての充実〉

- ・県立宮古病院医師派遣継続
- ・県立北部病院消化器内科支援

### ②今後持つべき病床機能

救急搬送件数の増加、高齢者疾患の増加（循環器・脳神経系・がん疾患）による高度急性期医療・急性期医療の需要の増加に対応すべく、最先端医療技術の導入・集学的癌治療の充実・新型救命救急センターの設置を行う。そのため、病床機能としては高度急性期病床を増加させ、中部医療圏において高度急性期医療を提供する。

### ③その他見直すべき点

高い病床利用率・入院待機件数・長期入院患者数を踏まえ、急性期から在宅までのシームレスな連携強化を目指し、中部医療圏において不足している回復期病床の増床に注視していく。

【3.具体的な計画】

①4 機能ごとの病床のあり方について

〈今後の方針〉

	現在 (平成 29 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	51	→	70
急性期	304		285
回復期	—		—
慢性期	—		—
合計	355		355

〈具体的な方針及び整備計画〉

- ・救急搬送件数の増加を見据えた更なる高度急性期医療のニーズに対応すべく、新型救命救急センターの開設、最先端医療技術の導入、高度急性期病床の増床を計画する。

〈年次スケジュール〉

	取り組み内容	到達目標
2016～2017 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新病院移転</li> <li>※高度急性期医療の提供</li> <li>※集学的癌治療の構築</li> <li>※救急医療の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICU 増床 (2 床)</li> <li>・手術室増床 (2 室)</li> <li>・放射線治療開始</li> <li>・外来化学療法開始</li> <li>・ドクターカー運用開始</li> <li>・地域災害拠点病院指定</li> </ul>
2018 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度急性期医療の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定集中治療室管理料 2 取得</li> <li>・最先端医療技術の導入 (ダ・ヴィンチ)</li> </ul>
2019～2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度急性期医療の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型救命救急センター設置計画</li> </ul>
2021～2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度急性期医療の充実</li> <li>・集学的癌治療の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型救命救急センター設置</li> <li>・地域がん拠点病院取得に向けた取り組み</li> </ul>